

耐震 優 木造プレハブ

京大 鴻池組が共同開発

京都大学大学院地球環境学堂の小林正美教授(人間環境設計論)と鴻池組(大阪市)などは、耐震性に優れた木造のプレハブ住宅を共同開発し、同大北部キヤンパスで試作品を公開した。低コストで組み立てやすい構造で、被災地での仮設住宅への活用などを目指しており、小林教授らは「傷ついた被災者にこそ、木造住宅の温かみと快適さを提供したい」と話している。

安価、仮設にぴったり

角材を縦約2・7材、横約3・6材の長方形の枠に組み、四隅を金属製のジョイントと鋼板で補強。この枠組み7セットを45材間隔で横に約2・7材まで連結し、外壁と内壁を張って箱状の住宅に組み立てる。最大4階建てまで積み重ねることができる。

航空機や船舶の構造にヒントを得たもので、木材本来のしなやかさや軽さなどの特性を生かし、阪神淡路大震災級の地震でも倒壊しない耐震性があるという。壁と骨格の間に断熱材を入れて、従来のプレハブ住宅を上回る快適性を確保。骨

従来の仮設住宅は不用になると廃棄されていたが、解体して再び組み立てることが簡単なのも特徴で、被災者が別の土地へ移築しやすくなっている。小林教授は、「復興の足掛かりは、まず被災者が愛着をもって暮らせる住まい。仮住まいに終わらせない住宅を提供することが必要では」と、普及に期待している。



京都大などが開発した耐震性に優れた木造プレハブ住宅(左京区の京都大)